

No.	⑨	分類	3-(2)-ア	資料名	祖父母のためにできること	学年	5・6年	領域	道徳	4-(5)
-----	---	----	---------	-----	--------------	----	------	----	----	-------

1 ねらい

- 祖父母との関わりを通して、高齢者への尊敬の念やいたわりの心をもつ。

2 趣旨

- 「老い」について理解し、自分の祖父母に対する思いや関わり方を振り返らせる中で、高齢者への尊敬の念や感謝の心、いたわりの心を持って共に暮らそうとする気持ちを育てたい。
- 高齢社会の進展に伴い、高齢者の介護や関わり方についての問題は社会問題になってきている。高齢者の悩みや不安、願いや喜びを大切にしながら、高齢者と共に生きる社会のあり方について考えさせたい。

3 配慮事項

- 家族について話し合う場合には、家族と離れて暮らす児童がいるなどの様々な家庭事情を把握し、十分に配慮する必要がある。
- 「老いること」のマイナスのイメージが強調されないよう、年を重ねることのすばらしさを感じさせるよう配慮する。

4 展開例

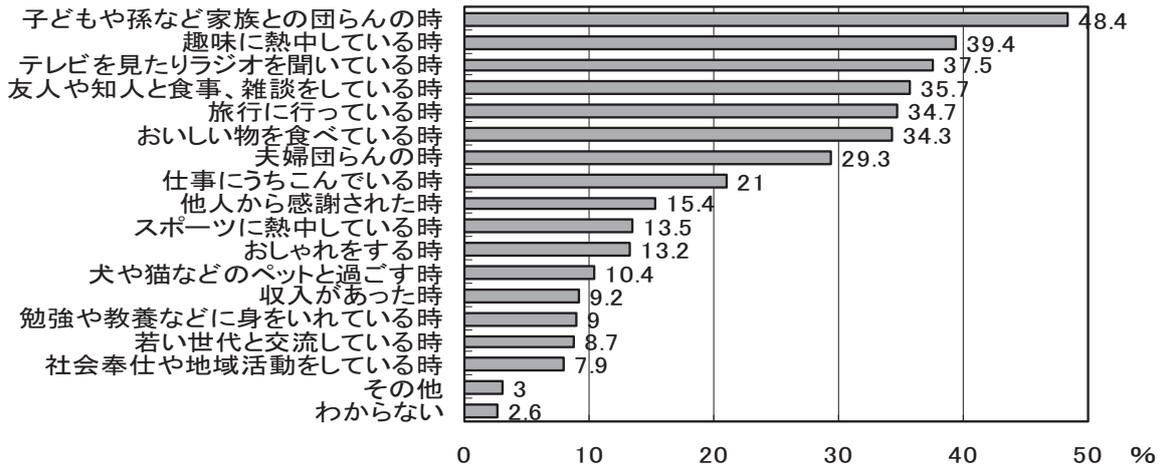
学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
1 自分の暮らしの中で、高齢者との関わりについて振り返る。 2 資料を読んで、祖父母に対する思いや関わり方について話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> 少しずつ変わっていく祖父母を「わたし」はどんな思いで見ているのでしょうか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・わたしたちの名前を覚えてほしいな。 ・祖父は、なぜ子どものようなことばかり言うのだろう。 ・私に何ができるのだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の祖父母だけでなく、地域の方をはじめ身近な高齢者との関わり方の状況を想起させる。 ・「人間は必ず老いる」という現実を理解させる。 ・「デイサービス」「ヘルパー」など、高齢者介護に関する語句について補足する。 ・祖父母との関わり方について悩むわたしに共感させる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> どうして、「わたし」はたまにしか会いに行かなくなったのでしょうか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びたいし、他にもしたいことがある。 ・いつも同じような話ばかりだ。 ・毎日会いに行かなくてもいいだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動的で生命力に満ち溢れた子どもたちにとって、高齢者との関わりは「少しめんどうくさいような気持ちになる…」という本音にも迫る。
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> 母の話を聞いた「わたし」は、どんな思いで祖父母と関わるようになったのでしょうか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・さみしく退屈な思いをしているのかもしれない。 ・喜んでもらえるといいな。 ・笑顔が見たいな。 ・今まで私が元気に登校できたのも祖父母のおかげだ。 ・これからも家族みんなで仲良く暮らしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・わたしの心の変化に気づかせながら、高齢者への理解や感謝の気持ちを深める。 ・毎日の関わりが大切であることに気づかせ、今後自分も進んで関わろうとする意欲につなげる。
3 高齢者との関わりについて、これから自分ができることを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・参考資料の「高齢者大学に通う方々の作文」等を参考に、高齢者の悩み、不安や寂しさ、また喜びや楽しみに気づかせ、今の自分に具体的にできることを考えさせたい。 ・孫との関わりが、楽しみや生きがいである高齢者が多いことを知らせ、あたたかい言葉かけをしていくことの必要性を感じさせたい。

5 参考

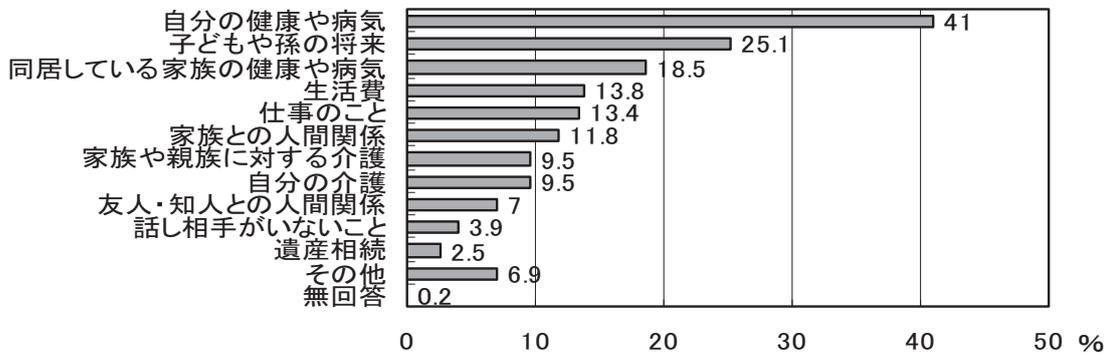
- 本資料は、平成22年度「人権作文集」（豊岡市人権教育推進協議会日高支部）の6年生児童の作文である。

参考資料

高齢者が喜びや楽しみを感じる時



高齢者の悩みやストレスの内容



〔第7回高齢者の生活と意識に関する国際比較調査〕（平成22年 内閣府）

いまともに

夫が、右半身不随になって、十四年目になります。当初は、自由にならない体に、じれったさを感じたり、悲しんだり、言葉も言いづらくなり、怒る事が多々あり、お互いにストレスをためて、ため息の日々で、いろんな葛藤もありましたが、振り返って悔やんでも仕方がないと、残りの人生を楽しく背負って生きていこうと、お互いの理解も深まりました。

今年、孫の運動会に連れて行こうと、車椅子を借り、孫に話すと「おじいちゃん見に来て。」とこころよい言葉ももらい、涙で返事をしていました。上級生の孫達は、下級生の面倒を見たりと、みんなの成長と練習の成果に感動しました。又地域の人達に声を掛けられて、うれしく、涙、涙の一日でした。

私も高齢者大学で学べ、良き友を得て、楽しい思い出の四年間でした。みんなに「ありがとう。」

孫

孫はほんとにかわいいです。歌の文句ではありませんけれど。じいさんばあさんには育てる責任がないので、可愛いばかりで接しられるのだといわれますが、そうかもしれないと思います。

最近では、たまの旅行に孫のみやげは何にしようかとの悩みを楽しみむようになっていきます。週一ぐらい私たちが家にきますが、買ってあげたおもちゃをもって遊びにきます。うれしいものです。満二歳の誕生日を迎え、最近ではすこし話が出来るようになりました。

私の人生、あと二十数年は頑張り、孫が成人、いや結婚するのを楽しみに、体に気をつけ元気で暮らしていけたら最高だと思えます。今日も携帯電話の片言電話の楽しみを待ち、元気で頑張るぞと思う日々です。

資料提供：兵庫県地域高齢者大学「丹波OB大学」